

「コロナ危機のもと、みんなで声をあげ、命とくらし第一の南知多町をつくりましょ」

内田たもつ議員は、コロナ禍で困っている町民の立場に立った支援策を、8回にわたり町当局に要望し、○水道基本料金の6カ月無料化 ○介護・障がい者福祉施設に支援金の交付 ○給食費の7カ月無料化 ○令和2年度生まれの赤ちゃん全員に10万円給付などが実現しました。

町民の願いをまっすぐに議会に届けて毎議会で質問し、命とくらしを守るため、きつぱりとモノを言ってきました。

日本共産党内田たもつ議員の「5つの約束」を紹介します

①「コロナ禍から命とくらしを守ります」

- ・国の助成も活用してPCR検査などの実施計画をつくらせます。
- ・町内のすべての特別養護老人ホーム、保育園、学校など感染リスクの高い施設の職員や関係者にPCR検査を国・県に要請し実施させます。
- ・暮らして生業に対する補償措置を拡大し、町民と業者の暮らしと営業を守ります。
- ・水道基本料金、学校給食費などの無償化を引き続き継続します。

②国民健康保険税・介護保険料の引き下げをすすめます

- ・介護保険料は、積み立てた2億円の基金、所得に応じた負担の見直しなどで引き下げます。
- ・コロナ感染症で収入が減少した世帯の国民健康保険税、介護保険料の減免制度を引き続き継続・充実します。
- ・消費税は、町民、中小企業に負担となり、町財政を圧迫しています。消費税を緊急に5%に減税し、経営の苦しい中小企業に19・20年度の納税の免除を国に要求します。

③教いき

発足した菅新政権は、内政・外交・政治モラル、そして、「新型コロナ対応」、どの点をとっても行き詰まりは明白です。こんなときに「自助」を強調し「まず、自分でやってみる」と唱える菅首相でいいのでしょうか。このコロナ危機のもとで、自公政権は社会保障を次から次に切り捨てています。75歳以上の医療費窓口負担も2倍にしようとしています。これに対し、町民から反対の請願があり、内田議員は紹介議員になり、血も涙もない政府の方針に断固反対の態度をとり、撤回を求めたばかりです。

また、菅政権は、日本学術会議の人事に介入して「学問の自由」を脅かす違憲・違法の強権政治に突き進んでいます。安倍前首相の「桜を見る会」、元農水相の大手鶏卵会社からの現金授受、河井夫妻の大規模選挙買収、カジノ汚職と立憲主義破壊、強権政治の私物化、デマとフェイクで民主主義を踏みしめる安倍・菅政治・・・今、こんな自公政権に代わる新しい政治・市民と力を合わせた野党連合政権が切実に求められています。

た届行

育、文化の振興で

今年、総選挙と南知多町議会議員選挙の年です。南知多町から「自公政治ノー」「命とくらしを守る新しい政治を」の声をあげ、菅自公政権を終わりにし、共闘の力で、国民のための新しい政権をつくりましょ。

子どもが輝く南知多町を

・学校の統廃合は、今までの統廃合ではなく、長期的視野で学びの条件を考え、じくじくとも、子どもたちに財政的支援をどの程度まで進めるかが問われています。当面は、住民の合意で策定、推進します。

あなたの

ご支持を

日本共産党へ

お困りごとは 町会議員の内田たもつへご連絡ください

0569-62-1816
090-2776-7529



人少・い町



資料未整備で閉館されたままの歴史民俗資料館（旧山海小）